

に、いつも心に不満があり、それが愚痴となって表面化するのです。

愚痴を言えば言うほど、心の中に不満がたまります。その結果、精神的にも肉体的にも経済的にも、ますます多くの不幸を招き寄せてしまうのです。変えることができないなら、愚痴を言っても仕方ありません。変えることができるなら、それを変えるための行動を起こすべきです。どうしても愚痴を言いそうになったら、自分の人生の中で恵まれていることに意識を向けて積極的に感謝しましょう。成功していない人は何かにつけて愚痴を言い、成功している人はあらゆる機会をとらえて感謝します。アメリカの経営コンサルタント、ブライアン・トレーシーは、こう言っています。

「何に対しても感謝する習慣を身に着けることだ。感謝するたびに、現状よりさらに大きな業績をあげるきっかけになる」

よく愚痴や不満を言えば満足するという人がいますが、それは間違いです。口にしてしまうと、その出来事がより脳にインプットされ、思いが強化され、また言葉に出してアウトプットして・・・といった感じでどんどん強化されてしまいます。同じように、感謝の念も言葉にすることによって、アウトプットとインプットを繰り返し、どんどん強化されていきます。愚痴や不満といった悪い想いは、どこかでストップをかけなければいけません。対策は三段階あります。

第一段階そう思ってしまったとき、心の中で「ありがとう」をつぶやけば、脳が相手に対してのありがたい出来事を探してくれます。

第二段階それを忘れてしまった場合は、言葉に出さない。

第三段階それでも出てしまったとき、「でもあの人のいい人ですよ」とプラスで終えるようにする。

そうすると、愚痴・不満のインプットとアウトプットが止まり、負の連鎖がストップします。

日本一のお金持ちといわれている斉藤一人(ひとり)さんのお話に、こんなものがあります。『人には二つのタイプがあります。たとえばデートで公園に行ったとします。「お花がたくさん咲いていてきれいだった」と、きれいなところに目が行く人がいます。一方、「犬のフンがたくさんあって汚かった」と、汚いところばかり見つける人がいます。同じ時間、同じ場所にいたとしても、楽しくなる話をする人と、嫌な気分にする人がいるのです。口から出す、人の悪口、グチ、不平不満、それは公園の犬のフンと一緒にです。あなたのその美しい口から、汚い話は聞

基本的なところから信用は得られる

鎌田善政社長

建設現場は最盛期を迎え大変忙しい事と思います。日頃は気を付けていても、少しの油断で大きな事故に発展してしまう危険性があります。工事完了までは絶対に事故を起こさないように今一度自分自身の気持ちを引き締め、社員や取引先との連携を取りながら頑張ってもらいたい。発注者やお客様が喜んでいただく為には何が必要なのか、安全を確保する為には何が必要なのか、予算通りの利益を確保する為には何が必要なのか、今一度真剣な姿勢が求められる。

私共の会社は創業以来50年間、社員の給料を支払わなかったり、取引先への支払を行わなかったりは只の一度もありません。今後も継続して会社が発展できるように新しい体制作りや様々な取組を全力を挙げて行っていきます。又、基本的な事ですが、自分の机の上、机の中は整理整頓・清掃ができていますでしょうか。現場事務所においても同じです。身の回りは勿論の事、会社や事務所周辺においても清掃が行き届いていると業務も捗り、周囲の信用も得られて来ます。政典会では更なる向上を目指して自主勉強会を発足しており、活発な意見交換が交わされています。鎌田石油やイエローハットなどの関連会社を含めて全グループ社員で創業50周年の節目の年を新たなスタートとして頑張ってもらいましょう。

愚痴が不幸を招く

鎌田安典専務

人間はとかく愚痴を言いたがる生き物です。夏になると「暑い」、冬になると「寒い」と愚痴を言います。春と秋は過ごしやすい季節ですが、それでも強い風が吹くと「今日は肌寒い」、雨が降ると「うっとうしい天気だ」などと愚痴を言います。こういうふう人間は年がら年中、気候ひとつをとっても愚痴を言いながら過ごしています。気候について愚痴を言う人は、それ以外のことにも愚痴を言う傾向にあります。例えば勤務中も「いやな仕事だ」、食事中も「料理がまずい」などと愚痴を言います。要する

